

▶春日原に残る農の遺構

「かんばつはもうこない、実現した畑地引水」と、1956年の綾瀬広報は伝えていました。「小さい頃、工事していたのを見た」と、畑を耕す農家の方(65歳)は、くわを持つ手を休めて話してくれました。

【秋元 謙治・広報まちかど特派員】



▲アフリカへ毛布を送る

5月19日の「ボランティアさろん」は、「明社もみじの会」の会員さんを中心に26人が参加し、市民の皆さんから寄付された61枚の毛布にメッセージを縫い付けました。毛布はアフリカに送られます。

【河野 実・広報まちかど特派員】



▲蓼川神社の神輿がお披露目

6月3日、蓼川神社の新しい神輿「麟鳳竜」が入魂式の後、地区内でお披露目されました。

【大滝 隆司・広報まちかど特派員】



▲深緑の城山公園

5月上旬、雨上がりの早朝、みずみずしい生命力にあふれる樹木に包まれ、木々の香り、小鳥のさえずりに嗅覚や聴覚など五感が働き、何とも言えない心地よさを醸し出していました。

【高橋 元・広報まちかど特派員】



▲「花いちもんめ」オープニングセレモニー

5月14日、綾西バザール内でコミュニティビジネス「花いちもんめ」のオープニングセレモニーが行われました。綾西地区と商店会の活性化を目指して、県と市の補助金を受けての事業で、今後の展開が期待されています。会場には60人以上の関係者が集まり、会場もあふれるばかりの盛況となりました。

【段木 武・広報まちかど特派員】



▲美化キャンペーンで町をきれいに

5月27日、市内で美化キャンペーンが行われました。綾西緑地でも、子どもから大人まで多くの方が草取りやごみ拾いに参加。桜の下の遊歩道清掃と世代間交流という一石二鳥の効果が得られた1時間でした。

【近藤 秀敏・広報まちかど特派員】



▲ゆっくりウオークで元気ハツラツ

5月13日の晴天に、小田急多摩沿線の新緑に囲まれた若葉台公園周辺を「あやせ歩こう会」の皆さんが楽しくウオークしました。上谷戸親水公園にはホテルの里や池、水車小屋のほか、近代的な上谷戸大橋のある今昔風景があり、ちょうどこのぼりも歓迎していました。

【馬場 正勝・広報まちかど特派員】



▲名誉ある大賞

神奈川報道写真連盟公募展に出品した綾瀬写真協会副会長の堀井裕子さん(小園南)の「下北半島ものがたり」が、名誉ある大賞を受賞しました。笑顔のある自然体の美しさが伝わってくる力作に、綾瀬市民として感動しました。

【高橋 元・広報まちかど特派員】



▲情報配信の担い手

毎月1日と15日に発行される広報あやせは、市内の地域ごとに受け持つ110人の市シルバー人材センター会員が約3万4千部(1号当たり)を配布しています。作業の確実性が大変好評です。取材日も朝から準備に追われていました。お疲れ様です。

【吉江 旭・広報まちかど特派員】



▲ヒマワリが花開きました

深谷中央地区内の公園にボランティアが植えたヒマワリが、6月中旬に花開き始めました。市民参加型の花壇がある公園整備の一環として行われたもので、道行く人も「きれいだね」と顔をほころばせていました。